

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第2回所沢市産業振興ビジョン推進会議
開 催 日 時	平成30年11月27日(火) 10:00~12:00
開 催 場 所	所沢市役所高層棟8階 大会議室
出 席 者 の 氏 名	成田知栄子 大谷木康一 三上誠 新井重雄 石原優(早退) 河藤佳彦 千年篤 朝倉はるみ 櫻田潔
欠 席 者 の 氏 名	大木敬治 梶由紀子
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 産業振興ビジョンの進捗状況について (2) その他
会 議 資 料	(資料2-0 所沢市産業振興ビジョン) 資料2-1 所沢市産業振興ビジョン推進状況確認シート 資料2-2 所沢市地域経済動向調査(2018年8月調査)報告書(案) 参考資料 所沢市企業立地支援奨励金のご案内 参考資料 所沢市企業立地協力者奨励金のご案内 参考資料 都市型産業等に係る事務所等賃借料補助金 参考資料 農商工連携のためのきっかけづくり交流会 参考資料 農商工連携のための勉強会・商談会 参考資料 所沢ブランド特産品創出支援事業 参考資料 平成30年度所沢市地域資源活用・ものづくり総合支援補助金 資料提供 所沢NEXT商店街(成田委員)
担 当 部 課 名	産業経済部 部長 村松由朗 産業経済部 次長 市川博章 産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 村田貴紀 高橋利成 主任 菅井悠登 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主幹 吉永寿久 産業経済部 農業振興課 課長 三枝恵一 産業経済部 産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
河藤会長	あいさつ
事務局	<p>第 1 回産業振興ビジョン推進会議の振返り 資料 2-1 及び資料 2-2 について概要説明</p> <p>議事（1）所沢市産業振興ビジョンの進捗状況について</p>
会長	<p>本日の議事である「所沢市産業振興ビジョンの進捗状況について」先導プロジェクトごとに進めていきたい。</p>
事務局	資料 2-1 に基づき 先導プロジェクト A について説明
会長	<p>先導プロジェクト A は重点事業が 3 つあるが自由にご質問、ご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>いずれも質問である。重点事業 1 の奨励金交付 4 件の業種は何か。また、市内で活動しているところか。重点事業 2 は、現時点での申請はあるのか。またどういった業種なのか。重点事業 3 は開発されたとあるが、定期的に販売されているのか。</p>
事務局	<p>重点事業 1 の奨励金交付 4 件はいずれも市内事業者の移転もしくは拡張である。業種は製造業で、都市型産業は今年度から対象であり、まだ申請はない。</p> <p>重点事業 2 は、今のところ相談は来ているが申請書の提出はまだである。</p> <p>重点事業 3 の新商品の開発 1 件は既に商品化されていて販売もされている。補足だが、「里芋どら焼き」を開発した宝月様は「所沢ブランド特産品創出支援事業」を昨年度採択され、補助金を受けた状態で商品開発を行い、現在販売まで至っている。</p>
委員	重点事業 1 の企業誘致の 17 年度の実績は市内か、市外か。

事務局	<p>目標値は市内、市外あわせて件数を設けているが、実績は全て市内である。</p>
会長	<p>それぞれ事業立ち上げを非常に精力的に進められていることは評価できる。その中で企業誘致の事業は、立地奨励金を設け、企業誘致連絡会を開催するなどの取り組みも素晴らしい。しかし、この事業をどう普及させていくかという部分では待ちの状況ではないか。市の役割は限定的ということも理解はできるが、情報があつたときに、それを形にするためのアプローチをしていくことが市としても必要である。重点事業2にもつながる部分だが、その発信方法について何か考えはあるのか。</p>
事務局	<p>所沢市は、これまでも企業誘致に取り組んでいて、各制度も設けている。広報やホームページなど市の力でできる情報発信はすべて行ってきたが、それだけでは立地を検討している方に十分に情報は行き渡っていないのが現状と考える。所沢商工会議所の情報誌「SORA」でも情報提供しているが限定的である。</p> <p>実際に事業者様と接点を持っている金融機関、各種団体、各支援機関、国、県の方々の協力を得て、ようやく事業者様に誘致に関する制度等の情報提供ができるのではないか。企業誘致連絡会等を通して、事業に参画していただける方との協力体制をいかに整えられるかが重要だと考える。企業誘致連絡会はまだ1回しか開催していないが、これを核にいかに情報発信能力をこれから蓄えていけるかが実際はキーポイントになると考える。</p>
会長	<p>情報発信は非常に大事だが、それをどう活用していくかというところは、市の側からアプローチする体制は必要になる。市だけで動くのではなく、例えば企業誘致連絡会のようなさまざまなグループを作り進めていく。未利用スペースオフィス化の事業も、これからは民間団体、公的団体と連携しながら、可能性のあるところに市がアプローチしていく取り組みが必要である。今後、目標指標を増やしていく中で、待つだけでは限界がでてくる。</p>
委員	<p>重点事業2の賃借料補助金で、企業誘致も含めて、都市型産業を加えた点は所沢市の地域特性を活かした非常にいい取り組みで評</p>

事務局	<p>価できる。</p> <p>一方、5年間継続して事業を行う方を対象に最長24ヶ月の賃借料補助では、事業計画に賃借料補助を当て込んでしまい、かなり無理な計画となって、結果、事業継続できなくなるケースがある。補助が終わった後に事業を継続していくための支援を市のほうで考えているのか、または、実際にもう体制があるのかうかがいたい。</p> <p>市の継続的な支援は、既存の事業・制度のアナウンスや支援機関の方々を通しての各種伴走型の支援だけになる。したがって、ご指摘は今後の課題として理解している。</p> <p>補足だが、この補助金の予算は上限5件としている。ただし、例えば申請が5件の場合、5者に支給する制度ではない。市内で5年以上継続的、発展的に事業が営めるのかどうかという点を、一次、二次としっかりとした審査を行い、さらに専門の先生方が事業内容を精査し支援の決定に至るものである。</p> <p>ただ、ご指摘を受けた2年後の支援については検討していきたい。</p>
会長	<p>補助金の交付は、事業を独立して継続できる力があるのかがまずは重要で、それを見極めるしっかりとした審査体制が必要になる。</p>
委員	<p>企業誘致推進事業に関係ある情報提供として、埼玉県で、10/17に鶴ヶ島にあった県の農業大学校跡地の北側産業用地について(株)IHIと土地の売買契約を結んだ。(株)IHIは、当該地で民間航空機のエンジン事業の拠点新工場を建設し、2019年稼働開始の計画である。所沢市に隣接する瑞穂町にある(株)IHI瑞穂工場との事業運営の相乗効果で、効率的な生産体制を図ろうというものである。航空機エンジンは部品点数が30万点と極めて多く、裾野も広い産業で、今後20年程度は年率4.5%成長が見込まれている。</p> <p>また、所沢市は航空発祥の地で、昔は航空機産業の製造関係工場も多かったという。近隣のこうした動きも踏まえて、今後の製造業の企業誘致の一つの視点として検討いただければと思う。</p>
会長	<p>航空機は非常に厳しい規格のある産業だが、息の長い産業であり、こうした情報を企業誘致に是非活かして欲しい。</p>
委員	<p>重点事業2の賃借料補助についてうかがいたい。前提をみると、</p>

事務局	<p>既に賃貸借契約を締結している場合は対象外で、募集期間も非常に短期である。何か意味があるのか。</p> <p>事業開始にあたり、通年募集よりも期限を区切った方が効果が見込まれると判断した。本年度相談された方の中には時期が合わないという意見もあり、募集期間の考え方の見直しを検討したい。</p>
委員	<p>非常にいい制度であり、幅広い方が活用できるように募集期間を改めた方がいいだろう。</p>
会長	<p>情報提供は早く、また長期の方が好ましいだろう。</p>
会長	<p>続いて、先導プロジェクトBに移りたいが、石原委員が間もなく時間で退席される。全体として何かあればご質問を受けたい。</p>
委員	<p>全体としては、産業振興ビジョン全体がもともとアクションプラン的な作りであり、何を取り組むとどういう実績となり、どう変えていけばよいかははっきりしている。実績が未達成の場合も原因分析され、いい作りになっていると改めて思う。</p> <p>先導プロジェクトBの重点事業2で、「地域の中核となる事業者等応援事業」で、経済産業省の職員同行の記載もあるが、我々も「地域未来投資促進法」を策定したが、これは地域特性を活かして地域の経済波及効果を与えられる企業を応援していく、つまり、地域で稼ぐ力のある企業をどんどん作ることが国の方向性だ。そういった企業には、我々も積極的にご一緒したい。</p> <p>今後もそうした企業があれば同行して、国、県の支援策の活用など一緒に応援できればと思う。取り組みとして、2019年度の新規事業化の制度設計は非常に関心があり、後ほど説明もあるかと思うが、この点も随時必要であれば、情報交換をしたい。</p>
会長	<p>国からも力強い支援があるようであり、有効活用してほしい。可能性のあるところは、アプローチをしていくことが必要かと思う。是非検討して欲しい。</p>
会長	<p>続いて、事務局から先導プロジェクトBの説明を願いたい。</p>

事務局	「資料 2-1 先導プロジェクトBについて説明
委員	<p>重点事業1の「地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業」と前の先導プロジェクトA重点事業3にある「農商工連携推進事業」は重複しているように受け止められるが、重複しての申請はできるのか。農商工連携推進事業は農産物の地域支援とみることもできる。ただ、地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業は金額が大きい。両方申請できるのか、どちらか一方ということなのか。</p> <p>もう一点、重点事業3の「認定農業者」になるにはどうしたらいいのかについて確認したい。</p>
会長	重点事業1の関係から説明をお願いします。
事務局	ご指摘のとおり、どちらの事業にも申請はできる。ただし、応募要件や審査の内容が少し違うことから差異は出る。両方とも同時に補助を受けることはできない。
会長	<p>確認したいが、法律の「地域資源活用促進法」と「農商工等連携促進法」の違いではないのか。「農商工等連携促進法」は商工業者と農林漁業者が連携して新商品の開発等に取り組むものであり、「地域資源活用促進法」は地域資源を活用して新商品・新サービスの事業化を単独で行うものだ。法律との対応によるものではないのか。</p>
事務局	法律との関連性はない。もう少し広く募集を受付けている。
会長	二つ目の重点事業3の「認定農業者」について説明してください。
事務局	農業経営基盤の強化促進法に基づく5年後、10年後の農業経営改善計画を作成し、市町村に提出してもらい、適切なものであれば認定される農業経営者・農業生産法人のことである。
会長	続いて、先導プロジェクトCの説明をお願いします。
事務局	資料 2-1 先導プロジェクトCについて説明

委員	重点事業5の指標として、FacebookとTwitterの数字の記載があるが、これはどういったことに対するものか。
事務局	昨年から実施している所沢市のサイト上のFacebookの“いいね”とTwitterのフォロワー数を利用している。
委員	FacebookやTwitterは誰に向けての内容か。インバウンド戦略としての目標であれば英語で記載があるのか、対象は外国人向けなのか。翻訳機能を設定しているかも気になる。英語版があるのか。
事務局	現状、日本人向けで、外国語の対応はしていない。今後、外国語への対応は検討したい。
委員	外国人4カ国の留学生を対象としたモニターとあるが、4カ国はどここの国で、どういった留学生かなどは意図的に選んだのか。
事務局	本来であれば、早稲田大学などの市内にある学校の留学生をと考えたが、事業が立ち上がって間もなく、旅行会社に依頼して募集し、台湾5名、ベルギー、フランス、アメリカ各1名の8名が参加した。
委員	重点事業2では、2017年の実績データが記載されているが、2018年のデータは無いのか。
事務局	調べがついていないため、データはない。
委員	クアオルト健康ウォーキングをなぜ選んだのか、その根拠を知りたい。
事務局	クアオルト健康ウォーキングは、埼玉県ヘルスツーリズム産業創出支援事業である。これは埼玉県が観光と健康を使った産業創出事業で、山形県上山市で先進的な取り組みがある。気候変動型健康療法というドイツで取り組まれている健康ウォーキングで、ドイツでは健康保険の対象となる。どちらかという医療分野によったウォーキング手法である。これを上山市で取り入れたところ、産業創出や地域活性化の実績が上がり、埼玉県がクアオルト健康ウォーキングを使って取り組む事業を募集し、所沢市が採択された。

<p>委員</p>	<p>「クアオルト」は「温泉」を意味する。上山市は上山温泉があり、温泉とウォーキングを組み合わせていると思う。ドイツも温泉地を実施していると思うが、所沢市には温泉地はない。名前だけ利用するのはどうか。「クアオルト」という言葉は一般の方の馴染みは無く、ウォーキングの言葉だけで集客につながるかもしれない。事業として採用されたので辞退する必要はないが、ドイツや上山市で実施しているような基本的なウォーキングの取り組みが、狭山湖周辺でもできるのか。その取り組みに何があるのかをきちんと理解した上で、ウォーキングのツアーを組み込まないと看板倒れの商品になるので留意して欲しい。</p> <p>また、重点事業1の旧コンポストセンターの場所は、ブリッジでつなぐともあるが、ところざわサクラタウンとは違う場所にあるということか。「ところざわサクラタウン」や「マルシェ」、「COOL JAPAN FOREST 構想」などいろいろな言葉が出てきては、消費者はかなり混乱する。</p> <p>(株)KADOKAWA と協議して、一つの言葉に統一しないと、「COOL JAPAN FOREST 構想」と「ところざわサクラタウン」は別物、「マルシェ」は全く違う場所と要らぬ誤解を消費者に与えてしまう。情報発信の強化の話も出たが、それぞれバラバラに言葉が使われていると最悪である。個人的な意見としてだが、「ところざわサクラタウン」を「マルシェ」も含めた全部の場所を示す言葉として位置づけて、所沢市、(株)KADOKAWA 双方ともに、「ところざわサクラタウン」で一本化した方が良い。</p> <p>もう一つ、重点事業5の「インバウンド戦略推進事業」だが、所沢市にインバウンド戦略はあるのか。埼玉県観光計画ではインバウンドは100万人としている。インバウンドについては、是非埼玉県と連携した上で、100万人の中のどの程度をこのエリアに持つてくるのかという戦略を埼玉県と一緒に考えた方がいい。Facebook や Twitter も日本語しかないのに、インバウンドの目標に使うのは意味がない。留学生の利用は各観光地も実施されているが、在住留学生の意見は、個人的な経験から参考にはならないように思う。とりわけ2020年に「ところざわサクラタウン」のオープンもあり、それ以降にどの程度インバウンドの方が見込めるのか、少し先に目標を置いて具体的な戦略を県と連携しながら立ててはどうか。</p>
-----------	--

事務局	<p>「クアオルト」には「温泉」だけではなく、基本的に「保養地」との定義もある。「歩く」ことで、身体への負担を少なく皮膚体感温度を下げるができるため、日本クアオルト協会が全面的にバックアップしている。実は、首都近郊型での「クアオルト」の取り組みは日本には一箇所も無く、温泉地や地方の観光地がほとんどである。埼玉県としては、企業がこれからは健康経営を考えなければならない時代の中で、都市近郊である所沢市でこの取り組みを進めていきたいということである。</p> <p>また、「ところざわサクラタウン」については、名称が一体になるような働きかけはしていきたい。</p> <p>インバウンドについては、所沢市として戦略が策定されているわけではまだない。県の基本計画も参考しているが、(株)KADOKAWA で、アニメを使ったインバウンドの取り組み・計画が具体的に検討されており、所沢市でアニメツーリズム協会にも加盟するなど、その計画に所沢も加わっており、そうした情報を得ながら進めていく予定である。</p>
委員	<p>重点事業1で説明のあった70万～140万の数字は来場者か。1キロ圏内の方を含め、当初は250万人とか300万人という大きな数字もあったように思うが、大きく数字は異なっている。説明された数字の根拠は何か。</p>
事務局	<p>当初はホテルの客室数などを元に見積もったが、詳細な施設規模や設計が決まって、数値を見直したので来場者の予想も変わった。割り出し方は、例えば、「ところざわサクラタウン」内に、図書館、美術館、博物館の3つの機能を融合した施設ができるが、その施設が東京の同種同規模では年間どの程度集客するかといった具合に数値を積み上げて割り出した。ホテルも同様に、同等規模のホテルが年間どの程度集客しているかを集計して積み上げた数字が70万人から140万7千人という数字であったと記憶している。</p>
委員	<p>(株)KADOKAWA 頼みなのか。所沢市として積極的に観光客を誘致することはなく、(株)KADOKAWA がこのぐらい見込んでいるからという数字なのか。</p>
事務局	<p>これからPFI事業により施設を建てるわけだが、施設運営につ</p>

<p>会長</p>	<p>いても来年度以降指定管理者制度を導入して 地元や近隣の魅力を発信できるような運営主体を選定したい。「ところざわサクラタウン」に負けない、相乗効果の得られるような施設にしていきたい。そのためには、(株)KADOKAWA 側の施設概要がわからないと共存共栄も難しいことから密に連携していきたい。</p> <p>旧コンポストセンター跡地に作る施設運営は指定管理者ということだが、是非、事業性の担保できるような方法として欲しい。指定管理制度だから運営費はそのまま市がすべて負担するのではなく、事業者が事業の工夫ができる利用料金制にするなど、自らが積極的に運営に関われるようにして欲しい。観光関係の指定管理者は事業性が非常に大事であり、是非、指定管理者の募集条件や事業性をしっかり見ることのできる制度設計として欲しい。</p>
<p>会長</p>	<p>続いて先導プロジェクトDの説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 2-1 先導プロジェクトDについて説明</p>
<p>委員</p>	<p>先導プロジェクトAからDの全てでいえることだが、所沢市の人口は34万人だが、働いている人は都内で仕事をしている人が多い。若年者を見ると、今年の高卒は10倍近い求人倍率である。できるだけ企業を誘致しようとしているが、企業の一番の関心は、所沢で人が集まるのかという点である。</p> <p>所沢在住で、東京都内で働いていたけれども、所沢市内でも働きたいというケースで市はどう応援するのか。例えばの話だが、税金を安くできるといった応援ができれば、商工農の産業の部分で、人の活性化、市内からの人の流出を防げるのではないかと考える。検討していただくとありがたい。</p> <p>また、休耕農地がどんどん増えるのは非常に寂しく、土地が良いのだから、活用できる人がいるならば是非活用して欲しい。推進会議を通して、所沢ブランドでも産直プロジェクトでもいいので、参画してくれる人を募っていけるような案を作るのも良いのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>農業に関しては、新規就農の円滑化推進事業を進めているが、農地の賃貸借に対する一部補助や、新規農業者には中古にはなるが機</p>

	<p>械設備導入に対して補助を行っている。また、JAいるま野の担い手育成事業を斡旋するなど、JAいるま野とも互いに協力して新規就農者の支援を行っている。</p>
委員	<p>今の話は、広告であり、宣伝になる。素晴らしい話であり、JAいるま野と広めて欲しい。</p> <p>製造業においては、人材の流出が続いている。最近リクルートとパソナはこの地域がエンジニアのいない空白地域であると分析しているようだ。しかし、潜在的にはエンジニアは必ずいて、都内へ、大企業へ働きに行くという状況にある。Iターン、Uターンと言葉もあるが言葉だけではダメで、所沢に住めば税収として帰ってくるので、そのような施策ができれば良い。</p>
事務局	<p>人材確保の話は以前から出ていた話である。大学等とも連携を図りながら、人材確保推進事業を積極的に進めていきたい。また、立地支援奨励金の対象となる事業所は、新たな市民を雇用した場合に奨励金を支給するような補助制度もある。</p>
委員	<p>所沢で何十年と事業をしてきた企業でも、雇用した市民が流出してしまう状況もある。新規に外から入る事業者だけでなく、これまで所沢市で頑張られてきた既存の事業者も大切にしたい。</p>
事務局	<p>立地奨励金は、市外事業者は新規移転のみが対象だが、市内事業者は拡張や事業拡大でも申請可能であり、市内事業者の方が圧倒的に利用しやすく、交付対象者も市内事業者である。</p> <p>また、都市型産業等賃借料補助金も、事業拡大を伴っていれば市内事業者も対象となる。</p>
会長	<p>地域経済動向調査も含めて、全体としての意見をいただきたい。</p>
委員	<p>資料2-2の地域経済動向調査結果にもあるが、産業振興ビジョンの知名度が非常に低い。市から事業者に対して存在と理解を広める働きかけをしていただきたい。作ったはいいけれども、一部のしか知らないのでは価値がなくなってしまう。商工会議所や業界団体などを通じて、繰り返し市民にPRしてもらいたい。</p>

委員	<p>所沢市の経済がこれほどひどいのかと驚いている。おおよその景気D I指数がかなり悪い数値で、根本的な経常利益でもマイナスで、この状態では人を採用しても企業として成り立たない。経済評論家ではないのでこのデータが正しいかはわからないが、直近10月の景気ウォッチャーの街角景気は、猛暑で消費が冷え込んでいたのを盛り返したようだ。地域経済動向調査は6月までの実績だが、ここまで悪いのか。ヒト・モノ・カネで考えた場合、企業は売上が無いのに人を採用することは危険だと思う。経常利益がマイナスになっているが、中小企業の製造業が回復できない背景には高い金利がある。埼玉県商工会連合会を通して、金融機関の金利よりも保証協会が高いことについて申入れをしている。リーマンショックから10年経過するが、その時自己資金で対応したか、借入れをしたかで、現在の経常利益にも影響が及んでいる。現状の日本の中小企業は過剰な設備はできないのはわかるが、ここまで悪いのか。サンプルが少ないなど精査は必要だろうが、事務局の話ではさいたま市の調査結果と大きな差はないという。埼玉県の方は景況をどう評価しているのか。</p>
委員	<p>埼玉県では、中小企業の経営動向調査を四半期ごとに実施している。4～6月期のD Iは▲30.3である。過去の累積の数値であり、直近はまた違うかもしれない。</p>
会長	<p>それぞれの調査によって調査方法なども違い、相対的に見る必要がある。</p> <p>それでは、時間になったので、事務局にお返すする。</p> <p>議事（2）その他について</p>
青木課長	<p>成田委員から資料提供があり、説明をお願いしたい。</p>
委員	<p>所沢の名産がない、買えない、わからないという市民の声もあったので、ネット上でまとめて全国どこからでも通販で購入できるようになればということで、9月に「所沢NEXT商店街オンライン」(http://tokorozawanavi.com/category/next/)というタイトルでサイトを立ち上げた。現在4店舗が参加していて、宝月さんの「里芋どら焼き」も販売している。まだいろいろと試行錯誤している部</p>

<p>青木課長</p>	<p>分もある。現状 10 名程度のメンバーが、ネットと SNS で記事を掲載して、所沢の魅力を知ってもらうべく発信していこうとしている。</p> <p>また、産業振興ビジョンに関連するところで、「COOL JAPAN FOREST 構想」を知らない市民と知っている市民で極端な印象がある。知っている人は、東所沢が盛んになるけれども狭山丘陵もいいところであり、所沢の魅力をつなぐようなアクセスは考えられているのか、非常に心配しているようだ。プロジェクトを煮詰めることも大事だが、人の流れもあわせて計画として考えて欲しい。</p> <p>所沢の特産品の魅力発信は、産業経済部でも所沢ブランド特産品創出事業で 14 品目を認定しており、市、商店街を含めて、全国にアピールしていきたいし、事業にもつなげていきたい。</p> <p>また、回遊性に関しては、産業振興ビジョン（P55）でも触れているが、ところざわサクラタウンと狭山丘陵、所沢市街の回遊性をいかに作っていくかは、商業観光課を中心に各団体と協議していく。</p> <p>次回第 3 回産業振興ビジョン推進会議の日程は来年 2 月 5 日（火）午後 2 時である。</p> <p>また、産業振興ビジョンに関して、毎年開催している産業団体との懇談会を来年 2 月 18 日（月）午後 3 時から予定している。</p> <p>次回以降も各重点事業に対する取り組みにご意見を頂戴したく、引き続きよろしくお願ひしたい。</p> <p>（閉会）</p>
-------------	--